

歴史まち歩き

35

鎌倉街道とあゆち潟

【名鉄「呼続」駅▶名鉄「呼続」駅】

干潟に吹く万葉の風 古道の面影をたずねる呼続の浜

義経や頼朝、信長、家康も駆け抜けた鎌倉街道。呼続周辺は、あゆち潟と知多の浦を臨む勝景の地で、万葉歌人が歌に詠んだところ。「年魚市（あゆち）潟景勝跡」の白毫寺、旧東海道沿いの熊野三社にも立ち寄りませう。

1 旧東海道山崎橋と道標

旧東海道にある山崎川に架かる橋、近くに橋名を記した道標があります。一部が欠損していますが、これは太平洋戦争中の空襲により破損したものです。

2 白毫寺（年魚市潟勝景跡）

元亀2年（1571年）の創建と伝えられています。昔、この辺りは、あゆち潟と知多の浦を望む勝景の地で、万葉歌人などが歌に詠んだところ。名勝・旧「年魚市潟」展望地として、市に指定されています。「あゆち」は「あいち」に転じ、県名の語源となりました。また、源頼朝が京都へのぼる途中、ここで休んだので「棧敷山（さじきやま）」とも呼ばれます。境内には、勝景跡の碑や歌碑、芭蕉句碑などが点在しています。

3 鎌倉街道

鎌倉時代に京都と鎌倉を結んだ重要な道。現在は住宅街の中にあるが、くねくねしていて、細く途中で緩やかな高低差があります。

4 熊野三社

山崎城主佐久間信盛が永禄年間（1558～1570年）に守護神とした社を山崎村の氏神として寛永4年（1627年）にこの地に移しました。社務所中庭には、大きな字で「松巨島」、背面には「明和三丙戌歳（1766年）…」と彫られた手洗鉢があります。「松巨島」と呼ばれるようになった理由は、この地を熱田方面から眺めると、この一帯が「松の大きな島」に見えたからだといわれています。

5 湯浴地蔵

高さ約2.3メートルの坐像です。地藏院に安置され、鎌倉時代に鑄造されたと伝えられています。人びとが湯を浴びせて祈願したことから「湯浴地藏」と呼ばれるようになりました。戦災と伊勢湾台風の被害に遭ったため、今では仏頭と両掌だけが旧形をとどめています。すぐそばを東海道と鎌倉街道が交差しています。

6 安泰寺

安泰寺の境内は、別名「羽城」とも呼ばれた「山崎城」の跡地にあたります。東西が約45メートル、南北が約56メートルで、三方が崖で囲まれた要害の地でした。最初の城主は蔵人浄盤、次に桶狭間合戦で戦死した加藤弥三郎、最後が佐久間信盛でした。廃城後、桜の宝珠庵がこの地に移され、安泰寺となりました。

